

1. 基本理念

安全・安心の町田市のまちづくりの基本のひとつは、災害に強いまちづくりである。そのためには、市民（地域住民）参画活動による地域の防災力をいかに創造するかにかかっている。そして、市民参画活動の原点は、まず第一に、近隣愛のある“向こう三軒両隣”の人々のまち（社会）づくりからはじまる。

そこには、町田市民一人ひとりが家族や隣近所（地区～地域）が助け合う精神が育まれ、やがて、町田らしい“まちづくり風土・伝統と心”が醸成されてくると確信する。

2. 基本理念の背景

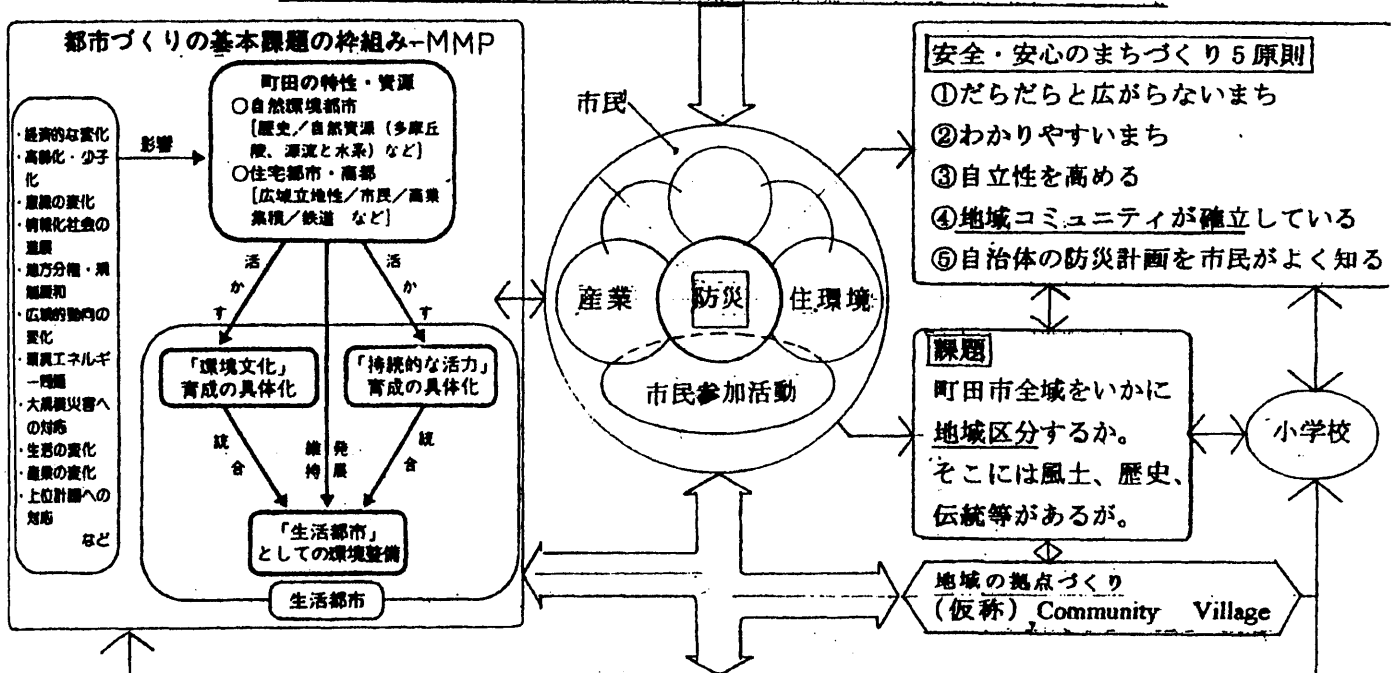
～まちづくりの要は“市民参加”から“市民参画型まちづくり”へ～

近年、首都圏周辺を襲う災害は、わが国が位置する自然条件（四季に恵まれた列島と地震列島・台風街道にある）の特殊性と、社会経済の変化（超高齢化、環境問題、都市化の進展等）により複雑・多様化している。さらに、南関東直下型地震や東海地震の切迫性が指摘されている現在、町田市においては最も身近な“市民（地域住民）参画型の安全・安心のまちづくり”のしくみ（システム化）が早急に求められている。

3. 具体策の提案

3-1 安全・安心のまちづくり① ～災害に強いまちとは～

—— 災害に強い町田のまちづくり→市民参加活動による地域の防災力をつけよう ——



阪神・淡路大震災の教訓 (1995年1月17日未明)

- 1、しっかりした **Community** があることや、地域で働く人のいることが救済・消火活動、復旧・復興の過程で大きな力を発揮する。
- 2、日常から災害時のことを考えてまちづくりを進めておくことが大切。
災害前からまちづくりに関する課題を考えておく。例えば、老朽化した木造住宅の密集地域、崖及び斜面地の木造住宅等→建物の倒壊と災害で大被害へ
- 3、行政でなければできないこと、行政が責任をもつべきことがあると同時に、住民が自分たちでしなければならないことも、たくさんある。
- 4、建物の不燃化や道路・公団の整備以外にも考えておくこと
 - ・家具の固定化と建物の耐震補強 (圧死を防ぐ)
 - ・樹木による延焼防止効果 (緑や花は、被災者の心をなぐさめる力もある)
 - ・手近の開かれた水面 (川・池等) を設けて、消火活動に備える。
 - ・避難所は学校利用をふまえて、地域の公共的建物の役割を見直す。
 - ・ライフラインが壊れても他の代替できる“ゆとりある仕組”、空地などの“ゆとりスペース”の確保
- 5、阪神・淡路大震災と異なるケースのチェック
 - ・風がもっと強かったら
 - ・都市生活が活発な時間帯だったら
 - ・家族がばらばらに外にいたら
 - ・真夏だったら
 - ・その他のケースを考えてみよう

地区の Community Town

3-2 安全・安心のまちづくり② ～地域の防災力をつける～

—— 市民参画（地域住民）の原点は、近隣愛から（向こう三軒両隣） ——

（1）地域の防災力をつける

① ソフト面からの地域のあり方⇒住民の自主防災組織の育成に力を入れる。

- 1) 使える地域防災計画
- 2) 地域の災害時の連携
- 3) 広域的連携（消防・医療）
- 4) 住民への情報提供
- 5) 自治体・企業・住民の強い連携

〔問題点〕

- 1) 24時間まちにいる住民が少ない。
- 2) 自主的・民主的な地域のコミュニティが新たに形成されていない。
- 3) 近隣のことに関わりをもたない。（都市的生活拡大）
- 4) 地域の企業団体と防災協力（協定）が結べるか。

② ハードな要素

- 1) 消防力（消防活動を行う人員、車両・施設の整備水準アップ）
- 2) 防災的な都市整備（避難路・防災帯、避難施設、ライフライン、施設の耐震・耐火性）
- 3) 被害者想定に対応した土地利用計画（例：災害危険性の高い地域は市街化区域としない）

（2）小学校の活用とその活用方法（モデル提案：コミュニティ・ビレッジ）

① 現在、避難施設としてもっとも多く指定されている施設は小学校、その理由。

- 1) 小学校がどこにあるか、住民がよく知っている。
- 2) 校区内は歩いて小学校へ行くことができる。通学路の安全性もチェック済。
- 3) 広い校庭があり、救済活動がしやすく、丈夫につくられている。
- 4) ほぼ人口に応じてうまく配置されている。

② 現在の小学校は、災害時の避難を目的としてつくられていない。改善が必要。

- 1) 防災施設としての機能を持ち得る安全性の十分な配慮。（耐震性、耐火性）
- 2) 外部から使いやすいように、体育館、事務室、特別室、トイレ等の配置。
- 3) 調理・給食施設を置く。
- 4) 井戸水、貯水槽を置く。
- 5) 特に、小学校は地域のコミュニティづくりの中心。福祉施設等との併設。

（3）市民（地域住民）によるそのまちの防災行動指針づくり（例：防災マップづくり等）

(4) 市民（地域住民）自身の手で、まちの防災上の課題をチェックしてみよう。

(5) 地域の防災力の課題

- ・防災力の原点は、向こう三軒両隣から
- ・既存の町内会・自治会、マンション管理組合、各種サークル、商店街振興組合等との積極的な協力支援組織づくりが必要
- ・人材の発掘と育成が必要